

# 令和2年度 教育課程研究集会 小学校 国語

奈良県教育委員会事務局学校教育課

義務教育係長 川西 聡弘

E-mail [kawanishi-toshihiro@office.pref.nara.lg.jp](mailto:kawanishi-toshihiro@office.pref.nara.lg.jp)

# 新しい学習評価〈変わったこと〉

## 昨年度までの学習評価（基本の4観点）

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

国語への  
関心・意欲・態度

話す・聞く能力

書く能力

読む能力

言語についての  
知識・理解・技能



## 新しい学習評価（全ての教科等で3観点）

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に  
取り組む態度

# 育成すべき資質・能力の三つの柱

学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。

学びに向かう力, 人間性等

どのように社会・世界と関わり,  
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を  
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか  
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる  
ことをどう使うか

思考力, 判断力, 表現力等

# 国語科における指導事項の整理

〈昨年度までの学習指導要領〉

A 話すこと・聞くこと（第1学年及び第2学年）

ウ 姿勢や口形，声の大きさや速さなどに注意して，はっきりした発音で話すこと。



〈新しい学習指導要領〉

〔知識及び技能〕

(1)イ 音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，**姿勢や口形，発声や発音**に注意して話すこと。

〈新しい学習指導要領〉

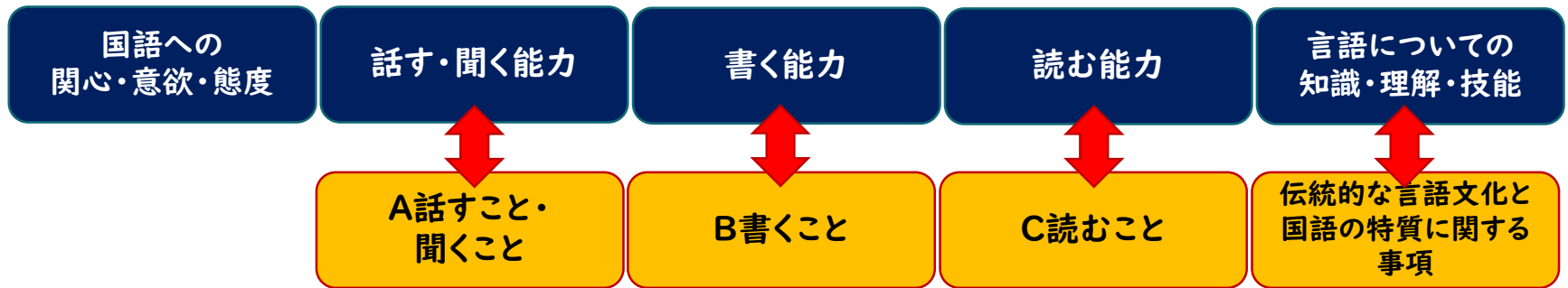
〔思考力，判断力，表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

ウ 伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。

# 新しい学習評価〈変わっていないこと〉

## 昨年度までの学習評価



新しい学習評価においても

## 新しい学習評価

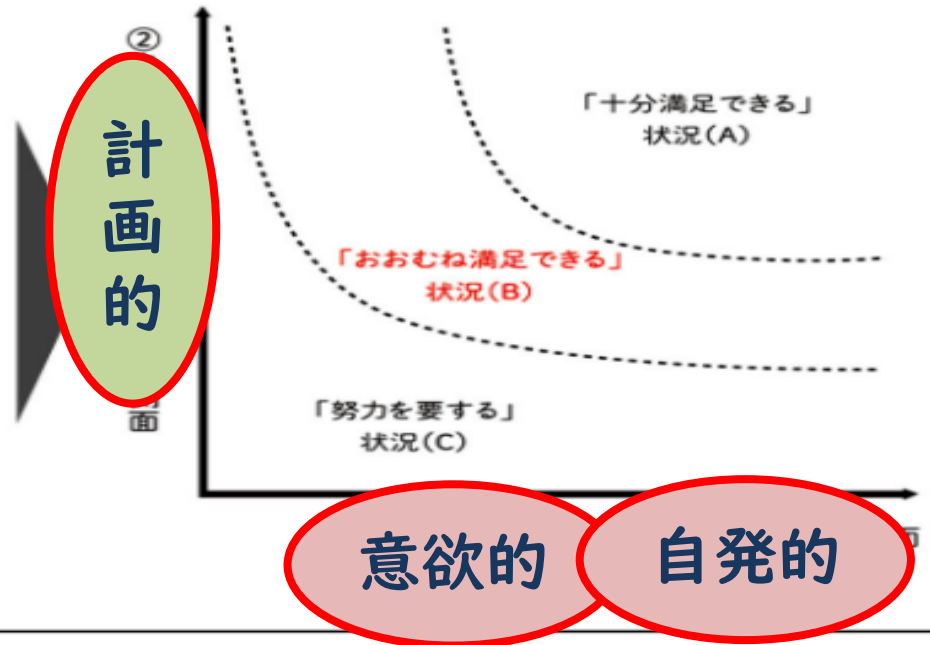


# 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



## 「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場면을、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

(「学習評価の在り方ハンドブック」より)



# 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

<評価の工夫(例)>

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる

内容を  
評価すること

※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。  
(例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではない。)

# 国語科 評価規準を作成する際の手順

〈例 第1学年及び第2学年「A 話すこと・聞くこと」の指導〉

◆言語活動 伝えたいことを紹介したり, それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動

## 〈単元目標の設定〉

- ・身近なことを表す語句の量を増し, 話や文章の中で使うとともに, 言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き, 語彙を豊かに**することができる**。  
[知識及び技能](1)才
- ・「**話すこと・聞くこと**」において, 相手に伝わるように, 行動したことや経験したことに基づいて, 話す事柄の順序を**考えることができる**。  
[思考力, 判断力, 表現力等]A(1)イ
- ・言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力, 人間性」

伝えたいことを紹介する言語活動を通して、  
話す事柄の順序を考える力を付ける単元。



# 国語科 評価規準を作成する際の手順

〈例 第1学年及び第2学年「A 話すこと・聞くこと」の指導〉

◆言語活動 伝えたいことを紹介したり, それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動

伝えたいことを紹介する言語活動を通して、話す事柄の順序を考える力を付ける単元。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 (〔知識及び技能〕(I)オ)	・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を <b>考えている</b> 。 (〔思考力, 判断力, 表現力等〕A(I)イ)	<b>積極的に</b> (①) 相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、 <b>学習の見通しをもって</b> (②) 伝えたいことを紹介しようとしている。

意欲的  
自発的

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

①粘り強さ (例) 〈積極的に、進んで、粘り強く 等〉

②自らの学習の調整 (例) 〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を想起して 等〉

計画的

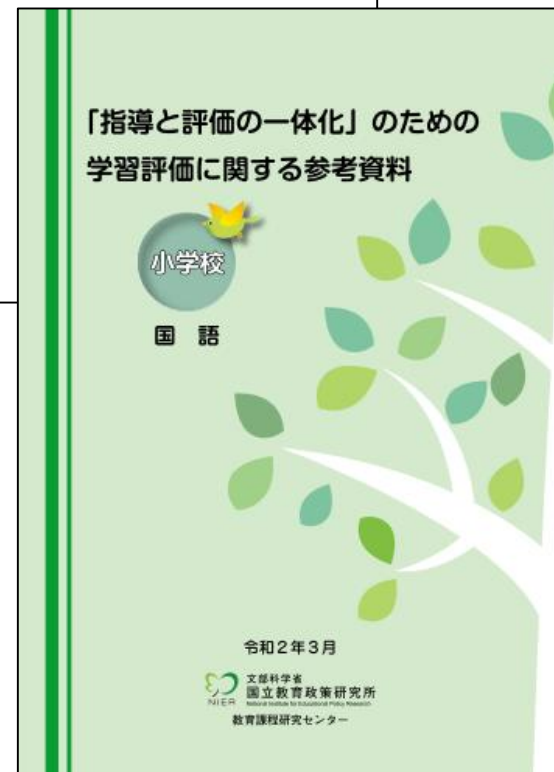
# 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第1編 総説

第2編 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成  
する際の手順

第3編 単元ごとの学習評価について  
・指導事例(4事例)の紹介

国立教育政策研究所のwebページから  
ダウンロードすることもできます。



# 〈年間指導計画表の作成〉(P50)

○印=当該単元で指導及び評価する内容

◎印=重点的に指導及び評価する内容

いつ、何の教材を扱うかだけでなく、いつ、どのような資質・能力(指導事項)を育成するのかを意図的・計画的に考えることが、極めて重要。

表2 「年間指導計画表」の例 (第2学年「A話すこと・聞くこと」の一部を抜粋)

		1	2	3	4	5	
第2学年		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	夏休みの思い出を報告しよう	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	
		○	○		○	○	
	授業時数	6	7	7	7	8	
〔知識及び技能〕	ア	言葉には、事物を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。				○	○
	イ	音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。	○	◎			
	ウ	長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。					
	(1) エ	第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。					
	オ	身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。			○		
	カ	文の中における主語と述語との関係に気付くこと。		○			
	キ	丁寧な言葉と普通言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。					
	ク	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。					
	(2) ア	共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。					◎
	ア	昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。					
	イ	長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。					
	(3) ウ	書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 (イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 (ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。					
	エ	読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。					
	(1) 〔思考力、判断力、表現力等〕	ア	身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。		○		◎
		イ	相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。			●	○
ウ		伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。	○				
エ		話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。		◎	○		
オ	互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。				○	◎	
言語活動例	ア	紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。	○		○		
	イ	尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。 (上記以外の言語活動)		○		○	

単元名

指導事項及び言語活動例

# 第3編 単元ごとの学習評価について

## 〈指導事例(4事例)の紹介〉(P41)

### 事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

「夏休みの思い出を報告しよう」(第2学年)

第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」(1)イ・エを、夏休みの思い出を報告するという言語活動を通して指導した実践における評価事例を紹介する。

本事例では、小学校国語科における指導と評価の基本的な考え方について概説する。

### 事例2 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「世代による言葉の違いについて意見文を書こう」(第6学年)

第6学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」(1)イ・ウを、世代による言葉の違いについて意見文を書くという言語活動を通して指導した実践における評価事例を紹介する。

本事例では、主として「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の一例を示す。

### 事例3 キーワード 「知識・技能」の評価

「読書に関する情報を読んで活用しよう」(第5学年)

第5学年〔知識及び技能〕の(1)カ・(2)イを、「C読むこと」(1)ウと関連付け、新聞記事など複数の資料を読んで活用するという言語活動を通して指導した実践における評価事例を紹介する。

本事例では、主として「知識・技能」の評価方法の一例を示す。

### 事例4 キーワード 「思考・判断・表現」の評価

「読んで感じたことや考えたことをまとめよう(ごんぎつね)」(第4学年)

第4学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」エ・オを、物語を読んで、理解したことに基づいて、感じたことや考えたことを文章にまとめるという言語活動を通して指導した実践における評価事例を紹介する。

本事例では、主として「思考・判断・表現」の評価方法の一例を示す。

## [ポイント]

①事例ごとにキーワードを設けて解説。

②評価規準の提示とともに、具体的な評価の方法を解説。

③単元目標や単元の指導計画を併せて提示。

# 〈事例2〉キーワード「主体的に学習に取り組む態度」の評価 (P51)

単元名  
 世代による言葉の違いについて意見  
 文を書こう  
 (第6学年) B書くこと

内容のまとめり  
 第5学年及び第6学年  
 [知識及び技能] (3)我が国の言語文化に関する事項  
 [思考力、判断力、表現力等]「B書くこと」

## 1 単元の目標

- (1) 世代による言葉の違いに気付くことができる。 [知識及び技能] (3)ウ
- (2) 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)イ
- (3) 事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

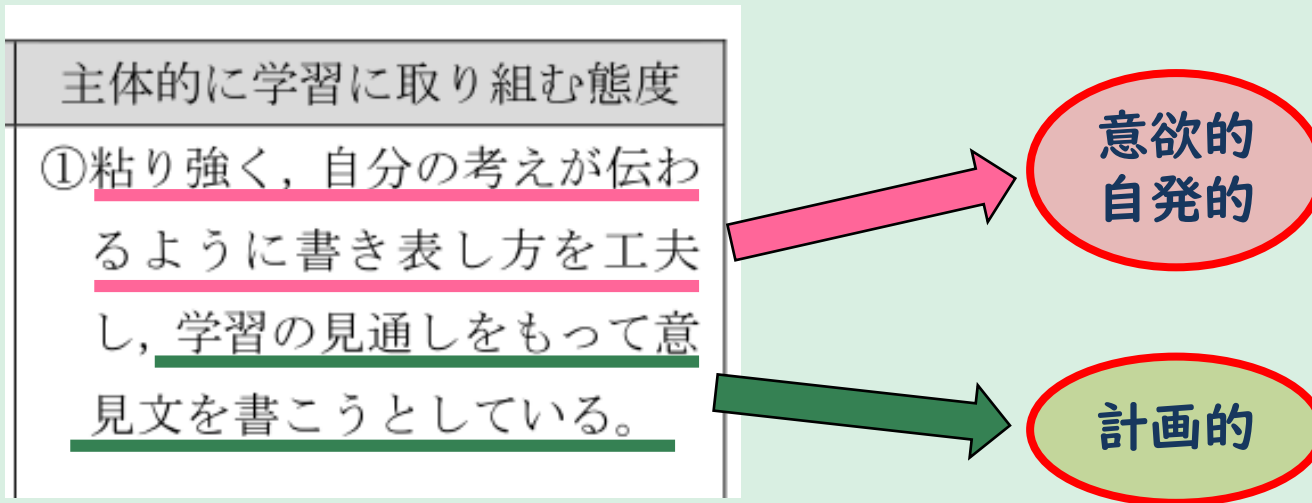
## 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世代による言葉の違いに気付いている。(3)ウ	①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ②「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

単元の目標(1)に対応

単元の目標(2)(3)に対応

## 〈事例2〉キーワード「主体的に学習に取り組む態度」の評価（P51）



### 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- ① **粘り強さ** (例) 〈積極的に、進んで、粘り強く 等〉
- ② **自らの学習の調整** (例) 〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を想起して 等〉

※巻末資料(P77~P113)「内容のまとめりごとの評価規準(例)」には、各領域別に、言語活動ごとに評価規準の具体例が示されています。ぜひ参考にしてください。

## 〈事例2〉キーワード「主体的に学習に取り組む態度」の評価（P53）

### ●単元における指導と評価の計画

#### 4 指導と評価の計画（全9時間）

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
6	○ノートに整理したことと文章構成表に基づいて下書きをする。	・下書きを書く際は、客観的な事象による裏付けと合わせて自分が考えたことを示すという点に留意して、書き表し方を工夫できるよう助言する。	[思考・判断・表現②] 意見文 ・考えを伝えるために書き表し方を工夫しているかの確認
7	○友達と下書きを読み合う。	・書き表し方について友達と助言し合うよう促す。	[主体的に学習に取り組む態度①] 振り返りの記述 ・粘り強く試行錯誤しながら書き表し方を工夫しているかの確認
8	・ ○下書きを修正し、それを基に清書する。	・ 完成後は友達の考えや書き表し方のよさを伝え合い、自分の文章のよいところに気付けるようにする。	
9	○清書した意見文を友達と読み合う。	・ 自分の考えたことを伝えるために、どのように書き表し方を工夫したのかを振り返らせる。	
	○学習全体を振り返る。		

## 〈事例2〉キーワード「主体的に学習に取り組む態度」の評価（P56）

### （3）「主体的に学習に取り組む態度」の評価

【主体的に学習に取り組む態度①】粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。（第6・7・8時）

【主体的に学習に取り組む態度①】は、自身の書き表し方の状態を理解し、それをさらに改善しようとしているかどうかという点を評価した。

本單元においては、「事実と感想，意見とを区別して書く」という書き表し方の工夫について学習している。これを受けて、記述の際の学習の振り返りとして、「事実と感想，意見とを区別して書く」ために「どのようなことに気を付けたか」、「どのような工夫をしたか」などを想起させ、ノートに書かせることにした。同時に、友達や教師から受けた指摘や助言，自ら気が付いたことを踏まえて、いつどのような修正を行っていくか，改善の内容や見通しについても振り返りの中に記述していくよう指導した。そこで、自身の書き表し方の工夫について振り返っていると同時に、友達や教師と交流した際に得た指摘や助言を踏まえて書き表し方をさらに良いものにしようと粘り強く試行錯誤する様子が見られた児童は、「おおむね満足できる」状況（B）とした。

このような児童の様子を捉えるためには、授業中の感想や授業終了前の振り返りなど、その時の児童の考えが把握できるものが必要。



## <事例2>キーワード「主体的に学習に取り組む態度」の評価 (P56、57)

### 〔実際の児童の活動から〕



Aさん

【友達の指摘】  
「『芸術家』という言い方が分かりませんでした。」の文が、事実と分かったことが混ざっていきにくいよ。

【第6時の振り返り】  
同じ意味の言葉でも世代によって言い方が違うということを伝えるために、「国語に関する世論調査」の情報を使いました。「芸術家」という言い方について書いたところが分かりにくいとAさんに言われました。確かに読みにくいので、次の時間に文を切って、事実と分かったことをはっきり分けてみようと思います。



Bさん

【友達の指摘】  
「若い人」って何才くらいなのかはつきりさせると良いと思うな。他にも、最初に示した世論調査は何年に行われたのかが分からないよ。

【第7時の振り返り】  
事実と分かったことをはっきり分けて書いてみました。先生からもアドバイスを受けたので、「やばい」の例も加えてみました。ずいぶんわしくなった気がします。  
でも、Bさんから、年れいなどをはっきりさせてはどうかと言われました。なるほどと思いました。ノートを確認しながら、次の時間に修正しようと思います。

こうしたことから、児童3は、書き表し方の工夫について振り返っているとともに、友達や教師と交流した際に得た指摘や助言を踏まえて書き表し方をさらに良いものにしようと粘り強く試行錯誤する様子が見られたと判断し、「おおむね満足できる」状況(B)とした。

「Bと判断する状況」について、児童の学習の状況(姿)を具体的に示すことが大切。こうすることで、指導のポイントも明確になる。